

「がある」の前には何があるか

塚脇 幸代

s-tsuka[at]dream.ocn.ne.jp

概要

格助詞「が」と動詞「ある」で構成される語連続「がある」について、新聞記事コーパスにおける出現状況と、前接要素を調査した。結果、名詞部分に様々なタイプの修飾要素がかかっており、さらに、前接要素によっては動詞「ある」の格パターン以外の要素がこの語連続を含む文の構造に関わっていることが分かった。

はじめに

格助詞「が」+動詞「ある」の組み合わせは最も基本的な日本語表現の一つである。「がある」の前には様々なタイプの語彙が当てはまる。「トマトがある」「会議がある」「頭痛がある」「恐れがある」など、名詞相当であれば「がある」構造の構成要素になることができる。しかしながら、その構成要素により、多少構造上、ひいては意味上の特徴の違いがある。本稿ではまず、「がある」に前接する要素とその一つ前の要素に着目し、考察を行う。

1. 方法

「日英新聞記事対応付けデータ(JENAAD)」(Utiyama and Isahara, 2003)の日本語文から文字列「がある」を含む文を抽出し、まず「がある」の直前に出現する名詞を抜き出す。抜き出した要素を X とし、「X がある」の語連続とする。このとき、「ある」は表層のみを取り出し、「が」との間に別の要素があることを想定しない。すなわち、「みかんがたくさんあります」などの表現は対象外となる。また、「が」についても表層のみ抽出し、「リンゴはあるがみかんはない」などの文も対象外となる。

次に「X がある」の前接要素にあたる部分を抜き出す。

表 1 に抽出作業例を示す。表中の「番号」は作業用につけられたテキスト番号で、「日本語テキスト」は上述の対訳コーパスの日本語部分である。「キー」は作業対象のテキストを抽出する際に用いられた検索キー「がある」である。『ある』の品詞は検索キー「がある」で抽出された文字列「ある」が、連体詞や助動詞の一部ではなく、動詞(V)としてテキスト中に出現している事を示す。この条件に合致する 5575 文が作業対象となっている。その右欄には、「がある」に前接する要素の文字列がおおむね単語単位で抽出してある。「など」や括弧類が付属するかもしれない。これを X とする。そして右端に「X がある」の前に来る要素を抜き出す。これを Y とする。

表 1: 作業例

番号	日本語テキスト	キー	「ある」の品詞	「がある」の前接要素(X)	「X がある」の前接要素(Y)
1146	こうした手続きの煩雑さに対しては、海外からも「市場参入の障壁になっている」との批判がある。	がある	V	批判	との
9329	伝統文化を後世に伝えていくには、現代に受け入れられる様式を模索する必要がある。	がある	V	必要	模索する
9998	医学研究、薬品開発などを含む生命科学の発展が求められる背景には、人口の急速な高齢化がある。	がある	V	高齢化	急速な

抽出対象のテキストは形態素解析を施していない平文である。抽出する文字列の範囲は形態素数によらず、意味のまとまりのある単位を選択しても差し支えないようになっている。ただ当然ながら、この方針は抽出範囲にばらつきを生じさせる。従って、形態素解析器やコンコーダサ等のツールを用いた場合は、多少の相違が出るであろうことをあらかじめ注記しておく。

2. X の抽出結果

前節の方法で抽出した「Xがある」のXに当たる要素を抜き出した結果、表2のような語彙が見つかった。出現数の多いものから上位100語を示す。

()内には出現数を示す。「必要」「可能性」「恐れ」「問題」「責任」などが多く出現している。コーパスにある程度の類似文が収められている事を勘案しても、無視できない数である。「こと」や「もの」の形式名詞も上位に現れている。

表2:「Xがある」のXに当たる語彙上位100語

必要 (1299)	可能性 (296)	恐れ (269)	こと (193)	問題 (145)	責任 (93)
狙い (88)	疑い (80)	限界 (69)	用意 (67)	経緯 (62)	もの (58)
声 (48)	効果 (45)	意味 (44)	違い (41)	懸念 (39)	危険 (35)
批判 (34)	面 (29)	指摘 (28)	無理 (26)	ケース (26)	傾向 (25)
例 (24)	疑問 (24)	意義 (24)	経験 (23)	おそれ (23)	側面 (22)
義務 (22)	理由 (21)	事情 (21)	見方 (20)	ミス (20)	点 (19)
危険性 (19)	動き (18)	現実 (18)	感 (18)	意見 (18)	不安 (17)
制約 (17)	規定 (17)	原因 (17)	差 (16)	議論 (16)	場合 (14)
責務 (14)	影響 (14)	開き (14)	関係 (14)	余地 (13)	歴史 (12)
不満 (12)	対立 (12)	限度 (12)	欠陥 (12)	実績 (12)	関心 (12)
心配 (11)	思惑 (11)	危機感 (10)	課題 (10)	ところ (10)	反発 (9)
問題点 (9)	考え (9)	異論 (9)	価値 (9)	必要性 (8)	方法 (8)
力 (8)	目的 (8)	格差 (8)	印象 (8)	認識 (7)	能力 (7)
部分 (7)	抵抗 (7)	特徴 (7)	状況 (7)	人気 (7)	ふし (7)
背景 (6)	変化 (6)	役割 (6)	主張 (6)	制度 (6)	障害 (6)
期待 (6)	自信 (6)	思い (6)	権利 (6)	試算 (6)	根拠 (6)
計算 (6)	事実 (6)	きらい (6)	一面 (6)		

上位100語には出現数6の語彙までが入っているが、この中には具象名詞がほぼ見当たらない。出現数の小さいところでは「事務所 (3)」、「滑走路 (2)」、「文書 (1)」などが見つかる。

3. Y の抽出結果

次に「Xがある」の左側の要素Yの抽出してみると、以下のようなパターンが見つかった。

(a) Xに対する連体修飾節。

10405: 同じアメリカの格付け会社の中にも、最近、日本の国債を格下げしないと**判断した会社がある**ことなどを指摘し、投資家が一社の格付けだけを見て、投資戦略を変える傾向が強いことに疑問を投げかけている。

7598: 不在時には宅配された品物をボックスに保管し、**送りたい荷物がある**時は荷物を入れておき、宅配会社に連絡して取りにきてもらう仕組みだ。

(b) Xに対する同格表現や引用。Yに「という」などが現れやすい。

10015: 医療関係者からは、「治療のために**必要という声がある**一方、人権侵害だとの批判も根強かった。

10281: 古代ギリシャの医聖ヒポクラテスの誓いに「患者に害を与えるなかれ」との**言葉がある**。

2824: しかし、日口間には領土問題**という障害がある**。

7580: 上司が問題行為を把握した場合、速やかに倫理審査会に報告するよう義務づけた国家公務員倫理法に、検査院そのものが**抵触していた疑いがある**。

(c) Xに対する形容。形容詞・形容動詞の連体形などの修飾表現が格要素を伴わず、単体で現れる

224: 「五千万人が対象になると言われ、日本に証券市場を本格的に根付かせ、『経済民主主義』を実現させる**大きな意味がある**。

301: 「国、地方自治体合わせて約四百七十兆円もの財政赤字を抱え、行財政改革の真っ最中という時に公費で海外旅行とは」といった**素朴な疑問がある**のを意識したことは間違いない。

345: 「好き」には**無限の可能性**があるからだ。

(d) Xに対する数量表現。「の」を伴ってXに掛かる

950: うろこがなく茶色で、**六本のヒゲ**がある。

8226: **二つの考え方**がある。

10081: 千葉県市川市の「KSD会館」(延べ床面積九百四十平方メートル)は、地上二階地下一階の洋風建物で、**十億円以**

上の資産価値があるという。

- (e) サ変動詞語幹 VN+「の」
9894: 包囲網や追跡の機動性も再点検の必要がある。
1178: こうした現状に、「コメが余っているのに、輸入の必要があるのか」(全国農業協同組合中央会)という声もある。
- (f) 「の」: X の格
11038: 国内経済問題では、長期不況からの脱出がある。
10636: 同省自動車交通局では、自動車メーカーや輸入代理店から届け出があると、その日に発表し、同省ホームページにも流している。
1560: この中には、財務状況が悪くてもメインバンクの支援が得られる企業、地方自治体の支援がある第三セクター、地域に一つしかない病院など特殊事情のある融資先が含まれている。
- (g) 「の」: その他 X を限定する要素
215: 「世界最大」の名は花や葉の大きさではなく、株全体のボリュームがあることからきている。
11832: 太陽のエネルギーがある限り、多分どこにでも住める可能性があります。
- (h) 「ある」の格要素
10313: 司法が基本的な改革を怠り、社会の急速な変化に対応できなくなったことに原因がある。
9284: 先送りされた課題もあるが、提案どおり実施されれば、経済社会の活性化に効果があると思われるものも、少なくない。
7095: ロシアと日本の提案には共通点がある。
- (i) 副詞または副詞句: 「X がある」に掛かる
9024: 住専の処理に税金をつぎ込むことに対し、国民の間に依然として抵抗があることは事実だ。
5820: もちろん、核拡散に対するある程度の危険、懸念もあるが、私には多少誇張があるように思える。
5443: また、問題の視点が高額保険料の解消にばかり向いているが、実は低額な市町村にも大いに問題がある。
- (j) X を含む複合語の前要素
5061 ところが、二十日以降の日程では、天皇陛下の兵庫県ご訪問がある。
30: ——民主、社民、自由三党を中心とした野党連立政権構想があるが。
- (k) 「などの」で示される X の例示
10349: 各国の政府、民間、学者などで組織、貿易政策、投資、経済展望などの作業部会がある。
5977: わずかに紙質が粗いなどの特徴があるが、印刷は鮮明で、一般人が見分けるのはほとんど不可能なほど。
- (l) X の並列要素
16083: 現在、労働紛争を手がける公的機関としては労働委員会や裁判所、民事調停がある。
12441: 幸い、二十九年前に発見された高松塚の保存技術と経験がある。
- (m) 文頭や節の切れ目
18444: 責任能力があることを認めたくうえで、精神科医ら専門家による治療、教育、さらに更生への援助が必要だとしたものだ。
5812 もちろん、地方財政の立て直しを自治体の努力だけに求めても限界がある。

4. 考察

「がある」が含まれる以上、動詞「ある」が影響を及ぼす範囲においては、その格パターンが生きているはずである。その意味においては、前節(h)は「がある」を含む文の基本的な構造、すなわち「～に～がある」や「～には～がある」の文型の「に」「には」の部分が Y の位置に現れていると言える。しかしながら、実際には X に対する修飾要素や数量表現、「がある」に対する修飾要素が Y の位置に置かれている。また X の取り得る格要素が置かれることによって、「X がある」にぶら下がる要素はさらに多様になってくる。一方、X と「がある」の組み合わせを見る限り、いくつかの「X がある」という表現は、ほぼ慣用句的に使われていると思われる。「必要がある」や「恐れがある」「問題がある」といった表現は、新聞記事という文体の中で、より客観的に文を締めくくるために使われているのかも知れないし、「必要」「恐れ」「問題」の具体的な内容を一つの文に盛り込むために、修飾要素をとりやすい語形を無意識に

採用しているのかも知れない。

Xの修飾要素としてのYの現れ方は、Xのタイプにより、ある程度の傾向を見ることができる。ここで最も出現数の多かった「必要がある」について、Yが上述の(a)~(m)のいずれであるかを確認すると、1299件のうち1280件が連体修飾節の形であり、実に出現数の90%以上を占める。また、「ある」の格要素は見当たらず、Xに対する修飾要素も現れなかった。これらのことから、「必要がある」が述部に続く場合、ほぼ助動詞的な役割を担っているといってもいいぐらいである。それでもこれを助動詞と言い切れないのは、表3に見られるように、あるときは「必要」に、あるときは「必要である」全体に掛かる要素が出現するからである。結局は、形態が「名詞」+「格助詞」+「動詞」であるから、その形態素が接続しうる限りの要素が割って入ることは十分に考えられる。今回の調査で対象外とした、「が」と「ある」の間に要素が入る「必要が限りなくある」というパターンは容易に見つかりそうである。

表3:「必要がある」とその前接表現

(b) Xに対する同格表現や引用→動詞/助動詞+「必要がある」(助動詞的)
急ぐ必要がある, 示す必要がある, 進める必要がある, 考える必要がある, 見直す必要がある, 検討する必要がある, 取り組む必要がある, である必要がある
(c) Xに対する形容→「必要」を限定する
緊急の必要がある, 特別の必要がある, 制度上の必要がある
(i) 副詞または副詞句→「必要がある」に掛かる
~のため必要がある, 特に必要がある, 交易上必要がある

これに対し、「限界がある」「問題がある」「責任がある」などは、「~には限界がある」、「~に問題がある」、「~にも責任がある」など「ある」の格構造がみえる表現も見つかっている。また「一定の限界がある」「大きな問題がある」「重大な責任がある」のように、毎詞を限定する要素も現れている。「連絡がある」「期待がある」や「不信感がある」では「~から連絡がある」「への期待がある」「に対する不信感がある」など、Xがあることによって導かれる特徴的な要素が見られる。

「Xがある」が取り得る様々な要素はまた、「がある」を含む表現の言い換えを考える際にも問題になる。「必要がある」を「必要だ」と言い換えた際、もし「必要」が「緊急の」の係先であったなら、それを副詞に言い換えて「緊急に必要だ」といわなければならない。しかし、「太郎から連絡がある」は「太郎が連絡をした」と言い換えたとき、視点や表出される角度が変わってしまうが、それでいいのかという問題が残る。「会議がある」を「会議が開かれる」と言い換えられるからといって、「次郎は今から会議がある」は、「次郎はこれから会議が開かれる」と単純に置き換える話にはならない。

おわりに

「がある」という表現の側から、その前接要素を調査した。ごく基本的な動詞の「ある」には、その基本的な格構造の中に、前接要素Xを取り込み、さらにXと「Xがある」が取り得るさまざまな要素を合わせ持ち得ることが見えてきた。コーパスの規模や特性から、見つけ切れていない表現やパターンが残っていると考えられる。「はある」「もある」の「がある」との違いや、「が」と「ある」の間に割り込む要素、「YXがある」のYの類型、Xとの関係など、課題はまだ残っている。

参考文献

- [1] Masao Utiyama and Hitoshi Isahara. (2003). Reliable Measures for Aligning Japanese-English News Articles and Sentences. ACL-2003, pp. 72--79